

第16回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年3月4日（金）午前9時00分～9時55分
2. 開催場所：Zoomを用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、榎本 敦、浜田信行、橋本 周、秋吉優史、阪間稔、小田啓二、笠井 篤、小嶋光明、川島恒憲、福士政広、高橋賢臣、五十嵐 悠

4. 紹介資料

- 資料1 エックス線被ばく事故の再発防止に向けて何をすべきか
資料2 エックス線作業主任者養成の観点からの課題

5. 議事

(1) 意見発表

資料1に基づき、小嶋委員よりエックス線被ばく事故の再発防止の観点からのエックス線事故の論点について説明があった。

- 事故発生を未然に防ぐことが重要であることから、経過報告書では、放射線リスクマネジメントを確実に実施できる取り組みの導入、及び事故防止につながる安全装置の充実について提案したい。
- 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ エックス線装置は医療現場で広く利用されており、我が国では近年医療従事者の過剰被ばくが散見されるとも聞く。この点をカバーすることに加え、患者への過剰被ばく等の医療被ばく上の過誤についても取り扱うべきであるとのコメントがあり、最終報告において全体のバランスを見つつ検討を進めるとの見解が示された。

資料2に基づき、福士委員よりエックス線作業主任者養成の観点からのエックス線安全管理の論点について紹介があった。

- エックス線装置を管理するエックス線作業主任者の試験による免許取得条件の観点から実技の項目がなく、実技が不足しがちな現状について紹介があり、実技講習等の追加について経過報告書で提案したい。
- 委員から以下の意見、コメントがあった。
 - ✓ 小規模事業者における実技講習等への参加可能性について質問があり、小規模事業者にとっては実技講習等への参加や実施の負担が大きい点の指摘があった。また、電離放射線障害防止規則では透過写真撮影の業務従事者に特別教育が課されており、この取り組みを利用する等の提言もできる可能性があるとの指摘があった。
 - ✓ エックス線作業主任者が関わったエックス線装置に係る被ばく事故の統計についての質問があり、現状では実態を示す事故統計の取得には限界があり、事故やトラブルの水平展開の観点から不十分ではないか、との意見があった。また、エックス線装置を使用するユーザーの状況（例えば、放射線及びエックス線についての知識がほとんどない、等）に応じた、適切な放射線安全教育及びエックス線作業に対する監督の重要性について指摘があり、この観点からの提言が可能であるとの意見があった。さらに、エックス線装置の

機能向上により安全性が高まった一方で、現場でのリスク認知が小さくなる点への懸念があった。

(2) その他

- WGメンバーに配布していた第15回WGの議事要旨を確認し、承認を得た。
- 経過報告書の現状について、山口幹事及び五十嵐幹事補佐より説明があり、事務局で報告書発刊に向けて、スコープの範囲、コミュニケーションのあり方等、検討WG設立趣旨に則った形でブラッシュアップを進める点紹介があった。
- 第17回は別途事務局内で日程調整することとした。

以上